

自分の思いを伝え合う集団づくり ～説明文から「表現する」技能を学ぶ活動～

愛知県岩倉市立岩倉南小学校

石坂 尚子

一 はじめに

授業の課題に対しての発言が一部の児童に集中し、活発に行われなことがある。理由を尋ねると、「発言したいけれどもうまく説明ができない」「自分なりの考えが浮かばない」と言う。これらは、言語力が十分に身に付いていないことと、自分の論理がうまく組み立てられないことが原因としてあげられる。説明文の学習を通して、五年生と六年生の二年連続で行ったうち、六年生の取り組みについて述べたい。

二 学習の全体計画

(下段参照)

三 文章の組み立て方を学んで

言語力を高める

六学年で取り上げた二つの説明文は、テーマや論の進め方が類似している。二つの説明文の構造をしっかりと分析し、それを比較しな

【学習計画】

体験活動（総合的な学習）

「野外学習」「米作り」「ストップ温暖化教室」

- ・体験を通して、自然を五感で感じ、自然の良さを感じる心を育てる。
- ・身近な自然環境の中にも生き物の循環があり、自然の大切さを実感させる。
- ・地球規模の環境問題について調べ、自分たちにできる解決方法を考え実践する態度を育てる。

	言語力の育成	表現力の育成
5年生	授業実践1	
	「森林のおくりもの」 ①説明文の構造を学ぶ。 【問い—本論—結論】 ②論理の展開の進め方を学ぶ。 【問い—答え—具体的な説明】 ③筆者の主張を読みとる。	①教材文から学習問題をつくり他の資料を用いてまとめる。 【学習問題—答え—具体的な説明】 ②筆者の主張を他の資料を用いてくわしく説明する。 【キーワード—資料—筆者の主張の説明】
6年生	授業実践2	
	「イースター島にはなぜ森林がないのか」 ①説明文の構造を理解する。 ②筆者の主張を読みとる。 ③問題提起から主張までの展開を分析する。 「マンモス絶滅のなぞ」 ④説明文の構造を理解する。 ⑤筆者の主張を読みとる。 ⑥2つの教材文から説得力のある説明文のポイントをまとめる。	①「イースター島にはなぜ森林がないのか」の筆者の主張に対して、自分の考えの立場を決めて発表する。 ②「イースター島にはなぜ森林がないのか」「マンモス絶滅のなぞ」2つの教材文を比べて、どちらに説得力があるのか自分の考えを具体的に述べる。 ③他の資料を用いて論理を展開し、説得力のある説明文を書く。

がら、筆者が文章の組み立てで工夫している点に注目して、読む学習を計画した。また、比べて読むことにより、「わかりやすく表現するポイント」を見つけていけるようにした。

① 説明文の構造を理解する

五年生で学習した説明文の基本構造【序論—本論—結論】と、【問い】の文を確認し、教材の文章構造をつかむ活動を行った。

② 筆者の主張を読みとる

説明文の核である「主張」をとらえることで、全体構造が分析しやすくなると考えた。

③ 問題提起から主張までの展開を分析する

全体の構造をつかんだ後、特に筆者の主張が述べられている結論部分を詳しく分析した。

④ 説得力のある説明文のポイントをまとめる

- 六年一組 説得力のある説明文のポイント10
- 1 序論を入れる（テーマについての説明を入れる）
 - 2 問いの文を入れる
 - 3 内容をわかりやすくする
 - 4 確かな題材をもとにする
 - 5 伝えたいことをわかりやすく短くまとめる
 - 6 難しいものは例えを入れる
 - 7 興味をもたせるようにする
 - 8 結論をはっきりさせる
 - 9 自分の考えを入れる
 - 10 心にひびくように工夫する

二つの教材を読解した後、どちらに説得力があるのかを評価し合い、その根拠から「六年一組 説得力のある説明文のポイント10」をクラス全体で導き出した。

四 自分の考えや思いを言葉や文章で論理的に表現する力を高める

「説得力のある説明文を書くポイント10」をもとにして、自分の考えを説明文にまとめる活動を行った。説得力があるかどうか互いに評価しやすいうように、テーマをクラスでしぼった方がよいという意見が子どもたちから出され、今までの自然とのふれあい体験と国語の学習をもとに「なぜ温暖化が始まったのか」と「地球はいつまでもつのか」に決定した。

① 説明文のメモづくり

【問い】をつくり、【自分の主張】に結びつくようにワークシートを使って、作文計画を立てた。

② 資料を使う

ポイント4「確かな題材をもとにする」を、実践するために、図書室の資料を検証し、必要な部分を取り入れて自分の主張を確実に裏づけられるようにした。

③ 作文する

教材文の表現も参考にしながら、ワーク

シートであらかじめ組み立てておいた自分の論理をもとにして、作文を書き進めた。

④ 発表し評価し合う

書いた作文を同じテーマの子ども同士、グループになって読み合い、互いに評価し合った。同じテーマ同士で評価し合ったことにより、「こんな主張の仕方があるのか」「こんな具体例もあるのか」と気づく子がいたり、「友達にアドバイスされて次に生かしたい」と次への意欲をもてた子もいたりした。

五 おわりに

説明文の読解の学習後に、それを活用した表現活動の場を設けることは、教材文で学んだことをすぐに自分の表現に生かすことができ、言語力と表現力の双方が高まる。さらに、表現力を磨くには、心の内から表現したくなる感動体験と組み合わせる学習計画を立てることが、一人一人の伝え合う力を高めていくことにつながっていくと考える。

これからも、子どもたちの【言語力】や【表現力】を育成し、自分の思いを言葉で表現できる集団づくりをしていきたい。

いしさが なおこ クラス全員が自分の思いを表現でき、ともに学び合うクラスづくりを目指して、試行錯誤の毎日。